

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎基本の習熟を図ることを通して、基礎の部分では全学年が目標値を大きく上回った。
- ・基礎の力に合わせて活用の力も伸び、全学年・全領域で目標値を上回った。
- ・具体物や身体を使って学習することを通して、長さや重さの量感が身に付いてきた。

(2) 課題

- ・四則計算では、わり算の正答率が他の計算と比べて低く、習熟を図る必要がある。
- ・文章題の読み取りについては、算数だけではなく国語の学習とも連携して取り組んでいく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（同一集団の経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・目標値より大きく上回っている。		
第5学年	・目標値より大きく上回っている。	・目標値より上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	・目標値より大きく上回っている。	・目標値より大きく上回っている。 (第5学年時)	・目標値より大きく上回っている。 (第4学年時)

(2) 令和7年度の結果分析（観点別）

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・かけ算の基礎的な計算力が身に付いている。 ・ひき算やわり算について、基本的な計算力に課題がある。	・□を使って、場面を式に表すことができている。 ・あまりのあるわり算の文章題の正答率が低い。	・既習事項を使って自分なりの考えを出そうとしている。 ・具体物を使った活動に意欲的に取り組んでいる。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な面積や体積を正しく求めることができている。 ・数直線上の分数の読み取り方（5年）や、円周の長さの求め方（6年）に課題がある。	・折れ線グラフや円グラフの読み取りが正しくできている。 ・身に付けている基礎的な内容を活用して解く問題の正答率が低い。	・自力で考えたり、友達と考えたり、様々な方法で学習に取り組んでいる。 ・具体物を使った活動に意欲的に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

・低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・たし算やひき算は計算カード等を活用して繰り返し練習して定着を図る。 ・たし算・ひき算、九九などの数の概念については、具体物や図などを用いて学習することで基礎的、基本的な知識や技能の定着を図る。 ・数量や図形の学習の内容については、数学的活動を通して、理解を確実にしていく。	・数学的な見方や考え方の幅を広げるために、児童同士の交流の場を意図的に作り、自分の考えを説明する活動を十分に行う。	・日常生活の場面を思い出し、ゲームなどを行ったりして楽しみながら繰り返し学習できるようにする。 ・日常生活に根ざした長さ、かさ、時間を活用する場面を児童に見出させるなどして、課題との出会いを大切にする。具体的な活動を通して、量感をもてるようにする。

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・計算単元では、四則計算の習熟の時間を確保し、特にひき算とわり算の計算力の向上を図る。 ・図形単元では、高学年の学習へつながるように、コンパスや分度器の使い方、平行や垂直などを確実に理解できるようにする。	・問題から場面を想像し、図や式を使って解き方を言語化する力を養う。 ・各時間で行う振り返りを次の学習へつなげることを通して、既習事項を活用して問題を解決する意識を高める。	・学習したことを日常生活の場面とつなげ、楽しみながら繰り返し学習できるようにする。 ・具体物や自分の身体を使って学習することを通して、長さや重さの量感を養う。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・計算単元では、小数や分数を含めた四則計算の習熟の時間を確保し、確実に解けるようにする。 ・図形単元では、図形の名前や性質、面積や円周の公式を覚えられるように振り返りを行う。	・問題の場面から図や数直線をかき、それらを活用することを通して、正確に立式や計算をする力を養う。 ・自分の考えと他の考えを比べることを通して、多面的に考える力を養う。	・学習したことを日常生活にどのように生かせるか考えることを通して、必要感をもたせる。 ・具体物や自分の身体を使って学習することを通して、長さや重さの量感を養う。